

社会貢献活動

当社は重要文化財「聴竹居」の保存・公開・活用を行うとともに、3つの企業財団「公益財団法人竹中育英会」「公益財団法人竹中大工道具館」「公益財団法人ギャラリーエークウッド」と連携して、建築文化の発信をはじめとするメセナ活動を推進しています。

重要文化財「聴竹居」の一般公開と建築文化発信への展開

この建物は京都府大山崎町に遺る昭和初期を代表する木造モダニズム住宅です。当社設計組織の黎明期に在籍後、京都大学教授となった故・藤井厚二が、住宅の改良を重ねながら建てた5回目の自邸です。当社は、2016年末に「聴竹居」を取得し、2017年に国の重要文化財に指定されました。地元との連携・協力のもと、継続的な一般公開による地域での建築文化の醸成に留まらず、公共博物館・美術館などへの展示協力を通じた文化発信に努めています。

2025年に国立新美術館と兵庫県立美術館で開催された「リビング・モダニティ 住まいの実験」展では、20世紀の傑作14邸として聴竹居が展示されました。また、大阪・関西万

博では竹中大工道具館の伝統建築の模型と道具、聴竹居や当社の木質建築作品の展示を紹介しました。9日間の短い期間でしたが、約10万人の来場客に鑑賞していただくことができました。

[☞ 一般社団法人聴竹居倶楽部](#)

歴史を重ねる企業財団の多様な活動

当社は大工道具館、ギャラリーエークウッド、育英会の3財団の活動支援を通じて、「伝統技術の伝承」、「建築文化の発信」、「未来を担う人材の育成」など、過去・現在・未来をつなぐメセナ及び育英事業を展開しています。

大工道具館はこれまで国内外で多くの展示を行っており、2025年は国立科学博物館での「植物×匠」展、東京国立博物館での「日光の彩色と金工」展に協力しました。ギャラリーエークウッドは、住宅建築を題材とした「阿部勤のいえ」展を開催しました。また、育英会は木造木質建築の新学生寮を稼働させ、学生や地域住民に建築の魅力を伝える場として、3財団は各々の設立趣旨を踏まえ、SDGsの示す社会課題の解決にも取り組んでいます。

公益財団法人竹中育英会

1961年に設立した竹中育英会は、創設者であり初代理事長である竹中藤右衛門の「感恩報謝」の理念のもと、青少年の育成と教育の振興を図ることを趣旨に、返済不要の奨学金給付事業をはじめ、建築分野への研究助成や、ハンディキャップフィールドへの助成を行っています。2023年には60周年記念事業として、東京に木造木質を使った環境配慮の [☞ 新学生寮](#)を完成させ環境共生の啓発と地域貢献の場としています。

[☞ 竹中育英会](#)



新学生寮(東京・練馬)

公益財団法人竹中大工道具館

1984年、神戸元町に「大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて工匠の精神や大工道具鍛冶心を後世に伝えていく」ための施設として開設されました。2014年に新神戸駅近くに移転し、木の香りにあふれる和風建築の博物館に、日本の伝統文化に関心がある外国人を含め多くの見学者が訪れています。また、伝統建築技術の伝承に関する展示を開催して、幅広い層への普及啓発に努めています。

[☞ 竹中大工道具館](#)



日光の彩色と金工展(東京国立博物館)

公益財団法人ギャラリーエークウッド

2005年に竹中工務店東京本店社屋1階に「建築の愉しみ方、芸術性や文化性」を発信する場として開設し、自主企画による展示を中心に行ってきました。建築文化をデザインや技術、自然や環境、暮らしや生き方、教育、科学、街づくりなど、より広い視点で捉えることで、人々の身近な課題と建築との親和性を深め、未来への視座をもって、より豊かな社会形成に寄与することを目指しています。

[☞ ギャラリーエークウッド](#)



フィンランド スピリット サウナ展



聴竹居(本屋)



リビング・モダニティ展



大阪万博会場での展示

地域貢献活動

本社及び各本支店において、拠点事業所を中心とした地域のイベントへの参加・協力、地元の学校・大学などでの授業・講義などを行っています。また、竹中工務店では、全国で実施されている地域貢献活動の事例をいつでも登録でき、本社に集約できるようにしています。優れた地域貢献活動については、毎年6月に「社会貢献賞」として表彰しています。

本支店における地域貢献活動の推進

全国の本支店、関連会社を主体とした地域貢献活動を推進・支援しています。

地域貢献の主な例として、ペットボトルキャップの収集・寄付、地域企業への施設の貸与、大学・高校へ出張講義・授業、事業所近隣の植樹や清掃活動への参加、作業所やオフィスの見学会の開催や見学者の受け入れ、地域のお祭り



構造演習講座の一環としての、大学生による作業所見学

やイベントへの参加・協賛、カレンダーや非常食の寄付、作業所仮囲への子どもの絵の掲示や花の設置など多岐にわたります。

年によって変動はあるものの、近年では年間300件近い活動事例が登録されています。これらの活動事例は、各本支店からはコンプライアンスリーダーを経由して、竹中工務店ではオリジナルの登録システムUnitBaseを用いて、関連会社からはメールにて本社で集約します。登録された活動概要は、イントラネット上で誰でも閲覧できるようにしていると、四半期ごとに全従業員に対して、地域貢献活動事例の登録を促す連絡文書を発行して、地域貢献活動への啓発を図っています。

本社におけるイベントへの参加

現在、東京本店、東京本社に入っている竹中セントラルビル、グループ会社が入居しているセントラルビル・サウスのある



近畿建設躯体工業協同組合主催の「型枠技能検定」会場に当社施設を提供

東京都江東区のイベントに、継続的に協賛・参加して、ワークショップなどを開催しています。ワークショップの収益は、国内の森林の健全化などを目的とする公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付しています。

江東区環境フェア

江東区環境フェアは、近隣住民を対象に毎年6月に、江東区の環境学習情報館「えこっくる江東」において開催される、環境をテーマとしたイベントです。

木の使用が森林の活性化、CO₂削減につながることから、当社ブースでは、木を使った「組子コースターづくり」ワークショップを行っています。「組子」とは、精密な加工をした木材を、釘を使わずに幾何学的な文様に組み付ける伝統木工技術で、ワークショップでは、木曽のヒノキを素材とした組子キットから、コースターを組み上げていきます。このキットは、公益財団法人竹中大工道具館の協力を得て提供しているものです。ブース内のポスターでは当社のサーキュラーエコノミー(サーキュラーデザインビルド®)や、施工中の高層木造プロジェクトを紹介しました。



江東区環境フェアでの当社ブース

環境貢献・社会貢献賞表彰

毎年6月を「竹中グループ環境月間」として、外部有識者を招いての環境講演会の開催や啓発ポスターの掲示など、様々な活動を行っています。その一環として、「環境・社会貢献賞表彰」があり、「環境貢献賞」と合わせて、地域社会に多大な貢献をした活動に対して「社会貢献賞」を表彰しています。応募された地域・社会貢献活動の中から、竹中グループの役員による厳正な審査を経て選ばれた優秀な活動には、「社会貢献活動優秀賞」を授与しています。表彰式では、竹中工務店の社長から賞状と副賞の授与のち、受賞者による活動内容のプレゼンテーションを行います。この様子はWEBでリアルタイムに全従業員に配信しており、地域・社会貢献へのさらなる啓発に努めています。



優秀賞受賞者による受賞活動の紹介と賞状の授与